

一般社団法人 日本薬学教育学会 第4回理事会 議事録

開催日時：令和6年2月15日（木）10：00～12：15

開催場所：WEB 会議システム（ZOOM）による開催

理事：乾 賢一、中村明弘、有田悦子、石川さと子、入江徹美、木内祐二、小佐野博史、
鈴木 匡、高橋一栄、武田香陽子、長谷川洋一、平田收正、松浦正佳、三浦典子、
山田成樹

委員長：木下 淳

監事：林 正弘、亀井美和子

事務局：横川和代

議事に先立ち、定款第35条第2項に基づき、議事録には乾理事長、林監事、亀井監事が署名又は記名押印することが確認された。

議事：

1. 前回理事会議事録案について（承認事項）

中村副理事長より2023年度第3回理事会の議事録（案）に基づいて議事の概要が報告され、一部修正の上、議事録として承認された。

2. 薬学教育カリキュラム検討委員会の委員増員について（承認事項）

当該委員会の委員長を務める鈴木理事より実務実習以外の領域の委員を追加することが提案され、承認された。追加する委員が本学会の会員であることを確認の上、全委員に委嘱状を事務局から送付することとした。

3. 第34回日本医療薬学会年会でのシンポジウムの共催依頼について（承認事項）

木内理事より第34回日本医療薬学会年会において本学会との共催シンポジウムを企画し応募したことが資料に基いて紹介され、承認された。

4. 日本薬系学会連合設立記念フォーラムの後援について（報告事項）

武田理事より資料に基いて日本薬系学会連合設立記念フォーラムの準備状況が報告された。フォーラムにおいて企画されている教育面での講演者として本学会から武田理事を推薦することとした。

5. 2023年度学会賞（教育研究奨励賞・教育実践奨励賞）の応募状況について（報告事項）

事務局より教育研究奨励賞に対して1件の応募があったことが報告された。2月19日としていた応募締切日を2月29日（2月末日）まで延長することとし、会員にリマインドメールを発信することとした。

6. 役員選挙の実施について（報告事項）

事務局より資料に基いて準備状況と今後のスケジュールが説明された。選挙人名簿に掲載される会員は558名、被選挙人名簿に掲載される会員は498名となった。今回利用する選挙管理

専用のシステムは、選挙権をもつ会員のみが1回だけ投票できるシステムであることが確認された。

7. 会員資格喪失対象者について（承認事項）

事務局より資料に基いて会員資格喪失対象者が紹介された。2年間会費を滞納し、昨年12月にメールと郵送で会員資格喪失となることを知らせたが返信のない会員37名が対象となる。役員がリストを確認し、会員継続となる場合は2月末日までに事務局に連絡することとした。

8. 法定調書の取り扱いに伴う税理士法人との契約書について（承認事項）

事務局より、学会支援機構が行ってきた業務のうち税理士が行うべき法定調書の取り扱いについては、税理士法人に業務委託することになった旨が報告された。資料に基づいて業務委託契約書の確認が行われ、契約することが承認された。

9. 第8回大会収支報告（報告事項）

入江理事より第8回大会の収支（5,674,000円の収支同額）が資料に基づいて報告された。熊本大学からの補助金の内容について確認が行われ、収支報告書に具体的に記載するよう依頼された。大会において支出超過となった場合には、学会から補填することが再確認された。また、大会の運営に関する内容について明文化することや参加費の見直しなどが提案された。

10. 第9回大会準備状況報告（報告事項）

三浦理事より第9回大会の準備状況が報告された。講演の依頼は終了し、シンポジウムとワークショップの公募をスタートした。一般演題はポスター発表を予定している。昼食は弁当の事前予約を取るが、オープンキャンパスと同時開催のため大学生協も利用可能である。参加費は第8回大会と同様の設定で、広告・展示・協賛は募集中である。定時社員総会は現地開催で準備している。

シンポジウムとワークショップの公募については締切日を設定した上で、会員宛にメールで知らせることとした。また、シンポジウム・ワークショップの登録フォーマット、調整方法、および旅費・謝金等について、過去の大会に基づく情報提供や助言が行われた。

11. 委員会報告（報告事項）

・編集委員会

入江委員長より資料に基づいて「薬学教育」のJ STAGE 公開状況と論文投稿・審査状況が報告された。また、1月末に「薬学教育」の第7巻の冊子体を発行し、第6巻と同じくらいの数の論文を掲載できたことが紹介された。原著論文の投稿を促進するため、年間優秀賞などの創設について編集委員会で検討する。

・薬学教育カリキュラム検討委員会

鈴木委員長より、新委員を加えてこれから活動方針を決めてシンポジウム等を開催していく予定であり、3月に予定していたワークショップ開催は延期することが報告された。

・倫理教育委員会

有田委員長より、平成4年度改訂コアカリへの対応を行っていく予定であり、第9回大会においてシンポジウム・ワークショップの企画を検討していることが報告された。

- ・ 国際化委員会
武田委員長より「薬学教育」に投稿する準備を進めていることが報告された。
- ・ ICT 教育委員会
木下委員長より委員会議事録に基づいて活動内容が報告された。また、日本医学教育学会から共同調査の提案があったことが紹介された。
- ・ 中長期ビジョンワーキンググループ
入江理事より 1 月に会員対象のニーズアンケート調査を行ったことが報告された。学会としてのミッション・ビジョンを策定する必要性を感じており、策定方法について改めて理事会で提案する。

12. 担当理事報告（報告事項）

- ・ 広報担当
石川理事よりホームページの更新内容が報告された。能登半島地震の 1 週間後にお見舞いメッセージを掲載し、委員会活動のページを更新した。英文ホームページの内容については国際化委員会でも検討する。
- ・ 連携担当
木内理事より、2024 年も引き続き「連続性のある多職種連携のシンポジウム」を関係する学会で企画していく予定であることが報告された。

13. 理事長報告（報告事項）

- ・ 日本薬系学会連合について
乾理事長より日本薬系学会連合の一般社団法人化が 2 月 2 日に承認されたことが報告された。会費は 5 万円に（500 人を超えた人数×30 円）を加えた額となる。定款などについては資料を確認するよう依頼された。
- ・ The 7th AASP Pharmacy Education Forum 2024 について
ホームページに基づいてフォーラムの概要が紹介された。

14. 会員登録状況報告（報告事項）

事務局より資料に基づいて 2024 年 2 月 9 日時点の会員数の増減・会費納入状況が報告された。個人会員は 766 名で 2023 年度の会費納入率は 80.5%、学生会員は 62 名で会費納入率は 32.3%、機関会員は 67 件で会費納入率 98.5%、賛助会員は 7 件で会費納入率 85.7%であった。会員数は全 902 件。機関会員に未入会の大学や新設大学に対しては機会を捉えて広報等を行っていくことが確認された。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、理事長及び出席監事がこれに署名捺印する。

2024 年 月 日

一般社団法人 日本薬学教育学会

理事長 乾 賢一

監 事 林 正弘

監 事 亀井美和子